

組織目標評価報告書 (2019年度)

部局名: **大学院ヘルスシステム統合科学研究科**

部局長名: **妹尾 昌治**

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)	
①教育領域			
	関連する 年度計画の 番号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等	
<p>①-1 「教育の質保証」に関するPDCA を組織的に実施するための体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画・戦略委員会および自己評価委員会:組織的なFD研修会を継続的に実施し、理念や目標の理解及び研究科に関わる教員の相互理解を目指す。 学務委員会:統合科目と、各専門教育を深化させる専門科目からなる体系的な教育カリキュラムを構築し、修士・博士論文を完成させる指導体制を構築する。審査委員に実務経験者を加えて社会実装の観点からの評価を行う。 医療組織連携委員会:医療機関・介護施設・企業との社会連携のもと、社会実装に向けたアイデア創出に留意し、異分野融合教育、倫理教育の充実に繋げる。 広報・情報委員会:定員充足に向けた教育環境整備や広報活動を推進する。海外特別入試の充実検討を続ける。入学後の国際的インターンシップやダブルディグリー導入を検討、大学間/部局間協定に基づく学生の受入派遣を促進する。修了後、研究科の理念を身につけ社会で活躍するために、就職担当教員を置き就職支援体制を整備すると同時に、全学同窓会との連携を検討する。 <p>①-2 リカレント教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 無線ネットワーク環境を整備した教室を利用して、社会人(遠隔地)の受入体制を整えることを検討する。さらに、社会のニーズおよび教員へのインセンティブなど必要な要件について調査する。 <p>①-3 教育活動の客観的指標による目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 定員充足率、就職率、休学率、退学率、学生海外派遣数、留学生入数について目標値達成を目指す。 	<p>9-1</p> <p>10-1</p> <p>14-1,2</p> <p>17-1</p> <p>26-1,3</p> <p>22-1</p>	<p>①-1 「教育の質保証」に関するPDCA を組織的に実施するための体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画・戦略委員会および自己評価委員会:組織的なFD研修会を前半に実施し、理念や目標の理解及び研究科に関わる教員の相互理解を目指したが、後半はコロナウイルスの影響で見送った。 学務委員会:統合科目と、各専門教育を深化させる専門科目からなる体系的な教育カリキュラム2年度目を完了し、修士前期課程第1期を完結した。修士論文については実務経験者を加えて社会実装の観点からの中間審査を行った。博士論文の中間審査については、令和2年度中のできるだけ早い時期に行う予定である。 医療組織連携委員会:大学病院と連携した先進病院実習、統合科学コーディネータによる岡山リビングラボの開催など企業等との社会連携のもと、社会実装に向けたアイデア創出に留意し、異分野融合教育、倫理教育の充実に繋げた。 広報・情報委員会:定員充足に向けた教育環境整備や広報活動を推進した。公開講座や部門説明会を開催した。海外特別入試の充実検討を続けた。入学後の国際的インターンシップやO-NECUSに参加し新たな協定を締結する等、大学間/部局間協定に基づく学生の受入派遣を促進した。ダブルディグリー導入はまだ検討を継続中である。修了後、研究科の理念を身につけ社会で活躍するために、就職担当教員を置き就職支援体制を整備すると同時に、全学同窓会との連携を検討した。 <p>①-2 リカレント教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 無線ネットワーク環境を整備した教室を利用して、社会人(遠隔地)の受入体制を整備中である中、さらに、社会のニーズおよび教員へのインセンティブなど必要な要件についても調査検討中である。 <p>①-3 教育活動の客観的指標による目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 定員充足率、就職率、休学率、退学率、学生海外派遣数、留学生入数について目標値達成を目指した。 	
②研究領域			
	関連する 年度計画の 番号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等	
<p>②-1 目標</p> <p>超高齢化社会の諸問題の解決に向けて貢献するために、ヘルスシステムを対象として、医工連携や文理融合などの統合科学的手法による研究を推進し、イノベーションを起こす国際拠点の形成を目指した研究を行うために以下を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ヘルスシステムに関連する統合科学研究を推進するとともに、研究成果を積極的に発信する。 ヘルスシステムに関連する学内外の組織との連携研究を推進する。 研究科教員によるグローバル化プロジェクトを推進する。 国際拠点形成の活動を支援する。 <p>若手を中心とした海外協定校との研究者交流を推進し関連する強化すべき分野の国際共同研究数を増やすために学外機関等との連携等を強化しながら次世代における研究拠点を確立する仕組みを構築する。</p> <p>②-2 研究活動の客観的指標による目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 科研費申請率・新規採択率、科研費獲得金額、共同研究受入金額・件数、受託研究受入金額・件数、寄附金受入金額、論文数、国際共著論文、国際共著率、Q1 ジャーナル投稿数について目標値達成を目指す。 	<p>27-1</p> <p>36-1</p>	<p>②-1 目標</p> <p>超高齢化社会の諸問題の解決に向けて貢献するために、ヘルスシステムを対象として、医工連携や文理融合などの統合科学的手法による研究を推進し、イノベーションを起こす国際拠点の形成を目指した研究を行うために以下を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> ヘルスシステムに関連する統合科学研究を推進するとともに、研究成果を積極的に発信するための公開講座「ひとの生と死ーヘルスシステムの現場から」を企画して実施した。 ヘルスシステムに関連する学内外の組織との連携研究を推進した。主な例として、JST 大学発新産業創出プログラム(START)プロジェクト支援型「免疫プロファイリングプラットフォームによる疾患の早期診断・迅速モニタリングシステムの開発」、CT透視ガイド下針穿刺ロボット(Zerobot)の研究開発、テラヘルツ波の生体分子間相互作用の検出技術への応用、触覚感知脳内モデルの構築と知能ロボットハンドへの適用に関する国際共同研究ケアの質向上のための人文社会科学と保健学の連携研究、「学際研究会」による研究会の開催などがある。 研究科教員によるグローバル化プロジェクトとしてインド・シスターニヴェディータ大学およびエジプト国立研究センターとの交流を推進した。 国際拠点形成の活動を推進した。若手を中心とした海外協定校との研究者交流を推進し、関連する強化すべき分野の国際共同研究数を増やすために学外機関等との連携等を強化しながら次世代における研究拠点を確立する仕組みの構築を検討中である。 <p>②-2 研究活動の客観的指標による目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 科研費申請率・新規採択率、科研費獲得金額、共同研究受入金額・件数、受託研究受入金額・件数、寄附金受入金額、論文数、国際共著論文、国際共著率、Q1 ジャーナル投稿数について目標値達成を目指した。 	
③社会貢献(診療を含む)領域			
	関連する 年度計画の 番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等	
<p>③-1 目標</p> <p>超高齢化社会の諸問題の解決に向けて社会に貢献するために、ヘルスシステムを対象として、医工連携や文理融合などの統合科学的手法によるSDGsを推進し、リビングラボなどを活用してソーシャルイノベーションを起こす国際拠点の形成を目指す。医工連携等異分野融合領域をはじめとした岡山大学のシーズによる具体的な成果を創出し、普及や研究成果紹介活動等の研究情報の発信をする。このための研究会、講演会等を企画開催して、ヘルスシステムに関連する統合科学研究の成果を積極的に広報・発信するとともに社会実装という形で還元を試みる。また、ヘルスシステム統合科学研究における研究情報の提供、学術的な知を易しく紹介する公開講座やサイエンスカフェを企画開催する。統合科学に関する解説書籍の翻訳・出版を企画して、さらにSDGsを広く浸透させる。</p> <p>③-2 社会貢献が目標とする客観的指標</p> <p>共同研究件数、受託研究件数、研究会および学会発表件数、国際シンポジウム発表件数、論文数、書籍出版件数について目標値達成を目指す</p>	<p>32-1</p> <p>33-1,2</p> <p>47-1,2</p> <p>49-3</p> <p>85-1</p>	<p>③-1 目標</p> <p>超高齢化社会の諸問題の解決に向けて社会に貢献するために、ヘルスシステムを対象として、医工連携や文理融合などの統合科学的手法によるSDGsを推進し、岡山リビングラボなどを活用してソーシャルイノベーションを起こす国際拠点の形成を目指した。医工連携等異分野融合領域をはじめとした岡山大学のシーズによる具体的な成果を創出し、普及や研究成果紹介活動等の研究情報の発信をした。このための研究会、講演会等を企画開催して、ヘルスシステムに関連する統合科学研究の成果を積極的に広報・発信するとともに社会実装という形で還元を試みている。また、ヘルスシステム統合科学研究における研究情報の提供、学術的な知を易しく紹介する公開講座やサイエンスカフェを企画開催した。SDGsを広く浸透させるために、統合科学に関する解説書籍の翻訳・出版の企画を検討中である。</p> <p>③-2 社会貢献が目標とする客観的指標</p> <p>共同研究件数、受託研究件数、研究会および学会発表件数、国際シンポジウム発表件数、論文数、書籍出版件数について目標値達成を目指した。</p>	
④管理運営領域			
	関連する 年度計画の 番号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等	
<p>④-1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究科の現状等の情報を共有し、必要な情報戦略機能の確立を促し、規定整備を進める。 FD研修を行って情報共有とカリキュラム進行状況、教育の国際化を確認し、PDCAによる組織活性化を図る。教育の国際化を意識したブレFD、SD研修も必要に応じて開催し、教育支援者及び教育補助者の資質の向上を推進する。 女性教員・外国人教員比率を維持し、次世代人材育成のための予算配分等を検討する。 SDGsを推進する統合科学プロジェクトの提案、国際連携コーディネータの雇用、教員によるRA/TAによる学生の雇用促進に対する予算配分を行う。 安全衛生委員会:安全衛生(情報セキュリティ、化学物質の管理、教職員のメンタルヘルスなど)講習会受講を促進し、構成員の意識向上を図る。 社会人学生等の受け入れや産学連携等に対応できる共用スペース活用を促進する。 コンプライアンス教育を行い、研究活動の不正行為および研究費の不正使用およびハラスメント行為の防止について教職員および学生の意識向上を図る。 2020年度に実施される第3期中期目標期間評価【暫定】に向けて、教育活動及び研究活動の状況の分析項目についての確認・準備を行う。 <p>④-2 管理運営で目標とする客観的指標</p> <p>月例会議開催1回以上。FD研修開催2回/年以上。女性教員・外国人教員比率維持、次世代育成支援予算配分、国際連携コーディネータ雇用、新規プロジェクト提案採用、学生のRA/TA経費に対する予算配分、安全衛生・コンプライアンス教育講習受講率、共用スペース活用状況、外国人教員割合、女性教員割合、若手教員割合目標値について達成を目指す。</p>	<p>67-1,2</p> <p>16-1</p> <p>70-1</p> <p>86-1,2</p> <p>89-1</p> <p>90-1</p> <p>91-1</p> <p>93-1</p>	<p>④-1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究科の現状等の情報を共有し、必要な情報戦略機能の確立を促し、規定整備を進めた。 FD研修を行って情報共有とカリキュラム進行状況、教育の国際化を確認し、PDCAによる組織活性化を図ったが、後半はコロナウイルスの影響で見送った部分もある。教育支援者及び教育補助者の資質の向上を推進するために、教育の国際化を意識したブレFD、SD研修も必要に応じて開催を考えたが、未了である。 女性教員・外国人教員比率を維持し、次世代人材育成のための予算配分等を検討した。 SDGsを推進する統合科学プロジェクトの提案、教員によるRA/TAによる学生の雇用促進に対する予算配分を行った。国際連携コーディネータの雇用については中止した。 安全衛生委員会:情報セキュリティ、化学物質の管理、安全衛生(教職員のメンタルヘルスなど)講習会受講を促進し、構成員の意識向上を図った。 社会人学生等の受け入れや産学連携等に対応を含め2年度目の学生の増分に対応できる共用スペースの活用を努めた。 コンプライアンス教育を行い、研究活動の不正行為および研究費の不正使用およびハラスメント行為の防止について教職員および学生の意識向上を図った。 2020年度に実施される第3期中期目標期間評価【暫定】に向けて、教育活動及び研究活動の状況の分析項目についての確認・準備を行っている。 <p>④-2 管理運営で目標とする客観的指標</p> <p>月例会議開催1回以上開催した。FD研修開催はコロナウイルスの影響で1回/年となった。女性教員・外国人教員比率維持、次世代育成支援予算配分、国際連携コーディネータ雇用、新規プロジェクト提案採用、学生のRA/TA経費に対する予算配分、安全衛生・コンプライアンス教育講習受講率、共用スペース活用状況、外国人教員割合、女性教員割合、若手教員割合目標値について達成を目指した。</p>	